

令和5年度学校評価アンケートの結果と考察

Ⅰ 「児童の成長」について

(1) 結果

○高い評価だった項目

児童・保護者・教職員の三者の回答が、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせて80%を超えた項目は次の通りです。

- ・「学校は楽しい」
- ・「健康で元気である」
- ・「家庭学習をしている」
- ・「学校のルールやきまりを守っている」
- ・「学習したことを生活や将来に生かそうとしている」
- ・「学校のできごとをよく話す」
- ・「友達となかよくしている」
- ・「交通ルールを守っている」

△低い評価だった項目

児童・保護者の回答が、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせて80%を下回った項目は次の通りです。

- ・「規則正しい生活を送っている」
- ・「勉強することは楽しい」
- ・「自分の思いや考えを伝えることができる」

◆認識にずれがあった項目

児童の方が、保護者よりも肯定的に捉えている項目

- ・「ICTを活用した授業は分かりやすい」差：31%
- ・「進んで働いている」差：23%
- ・「阿南市という町が好きだ」差：23%
- ・「夢や目標に向かってがんばっている」差：17%

保護者の方が、児童よりも肯定的に捉えている項目

- ・「困ったことがあるとき、相談している」12%

保護者と教職員との認識にずれがあった項目

- ・上記の△低い評価だった3つの項目は、教職員が肯定的に捉えているのに比べ、児童・保護者からの評価は低く、認識にずれがあることが分かりました。特に、「勉強することは楽しい」で、大きな差が見られました。

(2) 考察

- ・「学校は楽しい」と答える児童が8割を超え、児童にとって居心地の良い楽しい学校づくりに向けての成果が見られる反面、「まったくあてはまらない」と答える児童が5%おり、その状況、願いや思いを理解し、個に寄り添った指導・支援に取り組んでいく必要があると考えます。
- ・「交通ルール」や「学校のきまり」を守り、規律正しく生活している児童が多いことが分かります。普段からの地域や保護者の方々の見守りや声かけ、学校での交通安全・生活安全指導の積み重ねによる成果と考えます。今後もより徹底できるよう、地域の各機関や団体、家庭と連携を図りながら指導を続けます。
- ・「基本的な生活習慣の形成」については、昨年度に引き続き課題があります。上学年になるほど、「早寝・早起き・朝ご飯」ができていない児童が多くなっています。生活リズムの乱れから、遅刻したり、登校しても午前中は居眠りをしたり無気力な状態で過ごす児童も見られます。教科の学習や学活、生活指導を通して、基本的な生活習慣の大切さを伝え定着を促すとともに、養護教諭や家庭とも実態を共有し協力しながら、改善を図りたいと考えています。
- ・学習への意欲と自分の考えの表現については、昨年度に引き続き課題があります。教

職員が「楽しい授業・よく分かる授業を工夫している」と回答していることに対し、児童は65%、保護者54%とかなり厳しい評価となっています。児童一人一人の興味・関心に応じた課題設定や学びの特性に応じた授業内容の工夫を行い、「分かる」「できる」と授業の中で自己実現ができるような授業内容を工夫していきたいと思えます。さらに、研修を深めていきたいと考えています。

- ・ICTの活用の中でも、タブレット端末については、授業や家庭学習で活用を進めました。特に、授業中に自他の考えを共有する場面、個別のドリル学習の場面、動画や画像による記録等の場面で効果的でした。感染症拡大による学級閉鎖中の家庭学習の配付にも役立ち、児童はそのよさや楽しさを実感している子が多いです。効果に関して懐疑的な保護者が4割を超える中、ICT活用の目的や利点について周知すること、学年で目標を明確にして足並みを揃えて指導すること、授業参観など理解を深めてもらう機会を設けることが必要だと感じました。

2 「学校の取組」について

(1) 結果

○高い評価だった項目

保護者・教職員の両者の回答が、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせて80%を超えた項目は次の通りです。

- ・「学校は子どもが健康で安全な生活ができるよう努力している」
- ・「学校は人権を尊重する意識を育てようとしている」
- ・「学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」
- ・「学校は各種おたよりやホームページ等で、学校の様子や必要な情報を適切に伝えている」

△低い評価だった項目

保護者の回答が、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせて80%を下回った項目は次の通りです。

- ・「学校は施設・設備など環境整備を進めている」
- ・「学校は保護者や地域の願いに応えようとしている」

教職員のみに行った「働き方改革」は71%で、昨年度を3%下回りました。

「保護者や地域の願い」は、保護者と教職員の評価に24%のずれがありました。

(2) 考察

- ・「いじめのない学校づくり」や「学力向上」への取組については、昨年度よりわずかに評価はあがっていますが、2割近くは否定的な意見でした。

「いじめ」に関しては、各学級において、いじめを許さない学級・学校づくりをめざし、日々の指導や人権教育を進めています。また、年間3回の「いじめに関するアンケート」の実施を含めて、早期発見・早期対応に努めています。「いじめ」の事実を確認したときには組織で対応し、いじめ解決に向けての取組を続けています。「学校いじめ基本方針」や「いじめ対策委員会」についての周知、また、人権学習の授業参観等、保護者に対する積極的な情報発信を進め、学校の取組への理解を拡げていく必要があると感じています。

「学力向上」に関しては、6年生で実施した「学力・学習状況調査」においては国語、算数で、4・5年生で実施した「県ステップアップテスト」では算数で、県平均を上回る結果であった。学力向上実行プランに基づいた取組を各学年で継続して指導した成果であると考えます。本校の児童の学力の優れた点、課題点とその対策について、保護者と共有しながらより力を伸ばしていきたいと思えます。

- ・「施設・設備・環境整備」に関しては、60%というかなり厳しい評価でした。現在、運動場の拡張工事が進んでおり、スペースが広がることは、児童の活動の充実や安全に繋がると期待しています。しかし、施設全体の老朽化に伴う雨漏り、床面の痛み、中でもトイレ問題（数の不足・臭い・洋式化・古さ）は、学校から市への要望を行い修理・改善を行っていますが、快適な状況には至っていません。児童の安全・安心・清潔について、定期的な安全点検・管理に努め、できる限り対応してまいります。
- ・コロナ禍の終息により、保護者の中には、従前取りの行事や活動が再開されると期待していた方も多いと思います。しかし、児童数に比べ学校の施設設備が手狭なことによる運動会等の行事や授業参観への参加人数の制限。また、インフルエンザやコロナの感染拡大による相次ぐ学級閉鎖や行事の延期・中止。保護者や地域の方々の願いに十分応えることができず、多くのご意見をいただきました。今後の教育活動や学校運営のあり方については、コロナ禍の取組の成果と課題から、目的や教育効果を重視した上での内容を精選、適正な規模での運営・実施するという意図を、保護者や地域の方々のご理解いただけるよう、PTA役員会や総会等で丁寧な説明と情報発信を行ってまいります。
- ・教職員の働き方改革についての取組については、月の時間外在校時間が80時間を超える職員が、毎月平均2.6名いる状況です。教職員が心身共に健康で、本来の教育業務に専念でき、より高い教育効果を上げることができるよう、業務改善への取組を進めます。

3 保護者の自由記述より

- 図書環境の充実や各学年の体験活動、地域施設と連携した社会科見学、一輪車や合唱などの課外活動への取組が高く評価されました。
- 前述のように、環境整備については、校舎の老朽化についての指摘・安全面について懸念する意見が多くありました。また、児童の健康・安全面から「学校施設での喫煙を厳しく取り締まって欲しい」「道路周辺での練習を控えて欲しい」という社会体育への要望もありました。
- 学校行事については、授業参観や個人懇談の機会を増やして欲しいと要望する声が多くありました。担任や学校ともっとコミュニケーションをとり、より連携を深めたいとの声も多く、保護者が児童の学校生活の様子を見たり、児童のことについて担任と相談したりできる機会を増やしていきたいと考えています。
運動会については、学年別開催を歓迎する意見が見られた一方で、種目数や内容については改善を求める声もありました。「マラソン大会がなくなったのはなぜか」という意見も複数ありました。学校としては施設面・運営面、児童の活動や教育課程への負担軽減等を踏まえて、行事の精選や内容の検討・協議を行っていきませんが、学校の対応について保護者の方々の理解が得られるよう、PTA役員会等の機会でも丁寧な説明を行いたいと思います。
- 校則・服装については、「靴の色を自由に」「防寒着の着用の仕方をもっと柔軟に」「制服の是非」等、見直しを求める声が多くありました。何のための規則かを明確に説明でき、児童や保護者の理解が得られるように、様々な視点での意見を取り入れながら検討を行っていきます。
- 児童の指導については、「熱心に細かく指導していただき感謝している」という意見がある反面、「指導の仕方に不安を感じている」「落ち着いて学習に取り組めない」「子どもの意見をしっかりと聞いてほしい」という意見がありました。学校は、全ての児童が安心して学べる場でなければなりません。教職員の不適切な指導がないよう、教職員全体で児童への関わり方、生徒指導体制についての共通理解を図り、教職員としての服務規律の徹底、指導力の向上を進め、信頼回復に務めたいと思います。

また、中には、事実と違う内容が伝わり、保護者が担任に対して不信感をもっている点もありました。問題が起きたときには、機会を逃さずに家庭と連絡をとり、担任と保護者が協力して児童の指導に関わっていくよう努めなければいけないと考えています。

この他にも、タブレットの活用、夏休みの課題、Webアンケート、PTA役員選出、情報発信や開示、教職員の勤務姿勢等、たくさんの貴重な意見をいただきました。保護者の方の思いや意見を真摯に受け止め、正すべきところは全教職員共通理解のもと改め、今後の教育活動や学校運営にいかしていきたいと思えます。

また、学校から積極的に情報発信を行い、家庭との連携を密にすることにより、持続可能な教育活動と学校運営を見据えた取組についての理解と協力をお願いしたいと思います。

児童・保護者・教職員・地域が互いに繋がり、それぞれの思いや願いが実現できるような羽小教育の推進に尽力する所存です。次年度も、ご理解とご協力をよろしく願いいたします。